

ヨーク大学と日本

ヨーク大学と日本との関係は長期にわたり、その間、多くの専門分野及び組織、教員・学生・管理者が関わってきた。

- 日本は、学際的な東アジア研究学位プログラムが焦点を当てている三つの主要国の一つである。
- 2003年には、日本政府の桜プロジェクトの一環として、250本の日本の桜の木を植える植樹記念式典が執り行われた。これは、長期にわたる日加友好関係、また、ヨーク大学が持つ日本との文化・学術的関係を象徴するものである。
- 2004年には、日加修好75周年記念を祝う行事として「日本週間」が開催された。また、同じ年に、ローナ・マーズデンヨーク大学学長が、2001年4月に東京で開催された「考えようカナダ」会議の第2弾として、日加大学学長・総長会議をヨーク大に招き、座長を務めた。
- 2007年には、日本の元外交官、ピーター・佐藤氏に、その日加友好関係促進への功績により、法律名誉博士号が授与された。同年、日本国際交流基金が、そのヨーク大学に対する多大な経済援助の実績を評価され、ヨークの「敬意の中庭」(多額寄付寄贈団体・個人を表彰する)に仲間入りした。
- 視覚芸術のテッド・ビーラー教授による彫刻「波頭砕け」は、東京のカナダ大使館の正面を飾っている。

人的交流・業績

- ヨーク大学の学生は、2009年3月14日に開催された第27回オンタリオ日本語弁論大会において、最優秀賞を含む7つの賞を受賞した。これは全体の賞の3分の1にあたる。
- サンバ・バードラ(物理・天文学)ー日本における高エネルギー物理学研究グループとの協力提携。
- エレン・ピアリストク(心理学)ー石井良平教授(大阪大学)並びに郡司敦子教授(国立生理学研究所・岡崎)と二言語使用の認知制御に及ぼす影響について共同研究。
- ニール・ブルックス(オズグッド・ホール法律学部)ー日本における所得税に関する能力構築事業に参画。
- デビッド・カピアンカ(デザイン)ー東京タイプディレクターズクラブから活字画カルデアに対する認定賞受賞。
- アダ・チャン(数学・統計学)ー東北大学情報科学大学院後博士課程研究員(元)。
- デービッド・デウィット(政治学・研究担当副学長補佐)ーカナダ外交部及び日本外務省の共同支援による「日加平和・安全協力年次討論会」学術担当責任者、戦略・防衛研究で日本の第一人者である西原正教授との共同研究。
- イリヤス・ファラ(数学・統計学)ー神戸大学客員教授。
- トレバー・ファロウ(オズグッド・ホール法律学部)ー新潟大学法学部客員教授。
- ジョシュア・フォーゲル(カナダ研究座長・歴史学)ー中国・日本間の異文化関係専門家、*Articulating the Sinosphere: Sino-Japanese Relations in Space and Time* (Harvard University Press, 2009)著者、学際的研究雑誌「中日研究」再刊(2009)。
- スティーブン・ギル(政治学)ー明治学院大学(横浜)客員教授、東京大学法学部客員研究員。
- セオドア・ウィリアム・グーセン(人文学)ー日本文学専門家、*Oxford Book of Japanese Short Stories* (1997)編集。
- ジェイ・グールドディング(社会科学)ー中国・日本の哲学専門家。
- シャロン・林(フィルム・ビデオ)ー日本映画及びメディア研究専門家、日本映画と帝国に関する研究、日本の桃色映画に関する批判的歴史研究。
- ナオコ・池田(女性研究博士課程)ー主に沖縄における地域社会の女性たちの平和構築の実践に関する実地調査研究に協力し、ヴィヴィエン・ボイアジア研究賞受賞。

- レスリー・ジェイコブズ(社会科学)ーカナダ・中国・日本における人権・国際貿易論争を中国・日本の研究者と提携し、比較研究する主要研究事業のカナダ・チームを率いる。
- ジョウン・ジャッジー記事 'Mediated Imaginings: Biographies of Western Women and their Japanese Sources in Late Qing China'。
- ホン・カル(視覚芸術)ー20世紀の日本と韓国における博覧会文化の政治研究。
- マシアス・キピング(シュリーク・ビジネス・スクール)ー19世紀後半から21世紀初頭にかけての主要工業化地域(ヨーロッパ・北米・日本)における商活動としての経営コンサルタント業の発展に関する著作、一橋大学革新研究所客員教授、明治大学客員教授。
- セルゲイ・N・クリロフ(化学)ー国立伝染病研究所の化学者と共同研究。
- ジャニン・マーシェソルト(フィルム・ビデオ)ーメキシコ・シナイ、セネガル、東京など、都市中心部におけるデジタル芸術を研究、グローバル・ネットワークによって作り出された、新しい空間変容及び文化環境への理解を深める。
- ローナ・マーズデン(ヨーク大学前学長)ー対話によって日加双務関係強化を図る目的で、1991年にカナダ及び日本の首相によって設立された日加フォーラム会員(2003-06)。
- アツコ・松岡(社会福祉事業)ー「クリティカル・ソーシャル・ワークと脱構築分析：演習形式による内省思考の学び」(2007)著。
- アミン・マワニ(シュリーク・ビジネス・スクール)ー明治大学職業会計学大学院客員教授。
- モナ・及川(社会科学)ー日系カナダ人と植民地主義の関係及び日系カナダ人の強制収容に関する研究。
- ヒロノリ・大貫(政治学博士課程)ー日本におけるフィリピン人労働者に関する研究。
- 太田徳夫(言語・文学・言語学)ーキューバ・ハバナ大学に日本研究プログラム設置協力。
- ジュン・リー(人文学)ー韓国・日本の近代芸術・文学の歴史的発展及び現代大衆文化に関する研究。
- マイケル・ウェード(シュリーク・ビジネス・スクール)ー日本のIT系列企業の多角化と実績に関してJ. グラヴィルと共同執筆
- ポブ・タダシ・若林(歴史)ー近代前期及び近代日本思想に基づく著作、*Japanese Loyatism Reconstructed* (1995)著、*Modern Japanese Thought* (Cambridge University Press, 1998)編。
- エレノア・ウエストニー(シュリーク・ビジネス・スクール)ー日本のビジネス・社会変化及び国境間組織学習に関する専門家、東京大学及び一橋大学ビジネス研究研究所客員教授。
- バーナード・M・ウルフ(シュリーク・ビジネス・スクール)ー世界経済の中の中国・韓国・日本の役割に関する研究。
- ローナ・ライト(シュリーク・ビジネス・スクール)ー国際担当副学長補佐)ー名古屋大学教授、日本におけるカナダ企業の成功例に関する研究、日本の中小企業。
- フレデリック・H・ズィーマンズ(オズグッド・ホール法律学部)ー神戸大学法律学部客員。
- ジョイス・ズィーマンズ(視覚芸術)ーカナダ・アメリカ・日本の文化政策に関する比較研究。

プログラム

- 太田徳夫教授率いるヨーク大学の4年間の日本語プログラムは、カナダでも最高水準を誇り、300人以上の学生を有する。同日本語科は、カナダで唯一の「外国語としての日本語教授法」のコースを設けており、教育学部との提携により高校の日本語教員免許が取得可能になっている。日本語のプログラムは、コンピューター化が進み、教材はすべてウェブに掲載され、2001年秋から、遠隔教育によるコース開始。
- オンタリオを含めたカナダ東部全域を対象にした日本語能力試験実施校。

international.yorku.ca

- ヨーク大学英語研修センターによる明治大学及び獨協大学学生のための年次短期集中 ESL プログラム。
- 在日カナダ大使館政治部における夏季インターンシップへの学生配置。
- シューリック・エグゼクティブ・教育センター及びヨーク英語研修センターによる、明治大学主任レベル職員の短期研修旅行並びに明治大学大学院生のための会計学コース。
- 「ヨーク地球・宇宙化学研究所」(CRESS)と、京都大学の「宇宙と大気に関する電波科学研究所」(RASC)、また、名古屋大学の「太陽・地球環境研究所」(CRESS の開発した、上層大気の温度測定用の特殊装置設置地)との共同研究。
- 芸術学部における日本文化研究のコースには、茶の湯に関するコースがあり、演奏のコースではしばしば尺八が教えられる。また、教員・芸術家の日本との交流も非常に盛んである。東京国立劇場の歌舞伎役者片岡孝二郎氏、「Suzuki Company of Toga-mura」(SCOT)の主任振付師加藤正春氏、狂言師松本薫氏など。

協定校

全学規模

- 慶応大学(シューリック・ビジネス・スクールとの学部間だけの交流も含む)
- 早稲田大学(早稲田大学法律大学院との学部間だけの交流も含む)
- 名古屋大学
- 明治大学
- 獨協大学
- 先端医療振興財団(神戸)

学部間

- 立命館大学(シューリック・ビジネス・スクール)
- 日本国際大学(シューリック・ビジネス・スクール)
- 神戸大学(法学部・オズグッド・ホール・法律学部)

